

- 問1 1543年に日本の種子島へ鉄砲が伝来した時期、ヨーロッパではドイツのルターがローマ教皇や教会の権威を否定する動きを見せていました。このルターから始まった、キリスト教のあり方を問い直す一連の運動を何と呼びますか。 (2019年 大分県公立入試 類似)
1. ルネサンス 2. 宗教改革 3. 十字軍 4. 産業革命
-
- 問2 室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地で実力を持った戦国大名が登場しました。彼らが幕府の法律に頼らず、自らの領国を独自に支配し、家臣や民衆を統制するために制定した法律を何といひますか。 (2022年 和歌山公立入試 類似)
1. 分国法 2. 御成敗式目 3. 武家諸法度 4. 公事方御定書
-
- 問3 将軍のあとつぎ問題などを原因として1467年に発生し、約11年間にわたって続いた戦乱は、幕府の力を決定的に弱め、社会全体に「下剋上」の風潮を広める大きな契機となりました。この戦乱の名称を選びなさい。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
1. 承久の乱 2. 観応の擾乱 3. 応仁の乱 4. 島原の乱
-
- 問4 武士に関わる法律の歴史について、鎌倉時代に北条泰時が制定した「御成敗式目」、江戸時代に幕府が大名を統制するために制定した「武家諸法度」、そして戦国時代に各大名が領国支配のために制定した法律を順に並べたものとして適切なものはどれですか。 (2020年 佐賀公立入試 類似)
1. 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度 2. 分国法 - 御成敗式目 - 武家諸法度 3. 御成敗式目 - 武家諸法度 - 分国法 4. 武家諸法度 - 分国法 - 御成敗式目
-
- 問5 戦国大名が「分国法」を制定した主な目的として、当時の社会情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
1. 自らの領国における家臣同士の私的な争いを禁じ、大名による統治を強化するため。 2. 鉄砲の伝来に伴い、全国共通の武器使用ルールを室町幕府が定めるため。 3. 朝廷の権威を借りて、隣接する他の領国を経済的に圧迫するため。 4. 開墾した土地を永久に私有することを認め、農業生産力を高めるため。
-
- 問6 室町時代後期から戦国時代にかけて、各地の実力者が幕府の法に頼らず、自らの領国内を統治するために独自に制定した法律を何といひますか。 (2024年 岡山公立入試 類似)
1. 分国法 2. 御成敗式目 3. 武家諸法度 4. 公事方御定書
-
- 問7 戦国大名が「分国法」を定めた目的や、その内容に共通する特徴として最も適切なものはどれですか。 (2023年 静岡公立入試 類似)
1. 家臣同士の私的な争いを禁じ、大名の強力な権限で領国内の秩序を維持すること 2. 鎌倉幕府が定めた武士の慣習を全国一律に適用し、朝廷の権威を守ること 3. 江戸幕府の許可を得て、大名同士の婚姻を制限し、軍事を抑え込むこと 4. キリスト教の布教を制限し、特定の寺社を保護して領国内の思想を統一すること
-
- 問8 日本に鉄砲が伝来した16世紀半ばの世界情勢について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2019年 大分県公立入試 類似)
1. ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。 2. ムハンマドがイスラム教を創始し、アラビア半島の統一を進めていた。 3. チンギス・ハンがモンゴル帝国を建国し、ユーラシア大陸の広範囲を支配していた。 4. アメリカでリンカーンが大統領に就任し、南北戦争が勃発していた。
-
- 問9 武田信玄が定めた法の中に、「喧嘩をした者は、いかなる理由によるものであっても、双方ともに処罰する」という、いわゆる『喧嘩両成敗』の規定が見られる。戦国大名がこのような厳しい規定を設けた主な目的として、最も適切なものはどれか。 (2021年 沖縄公立入試 類似)
1. 家臣同士が私的な武力行使をすることを禁じ、大名の裁判権を確立して領国内の紛争を鎮めるため。 2. 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣国の領主に対しても示すことで領土を拡大するため。 3. キリスト教の博愛の精神を取り入れることで、家臣同士の平穏な共同体をつくるため。 4. 農村における生産性を向上させるために、武士が農業に専念できる環境を整えるため。
-
- 問10 1549年にフランシスコ・ザビエルが日本に上陸し、キリスト教を伝えた背景には、当時のヨーロッパにおける宗教情勢が深く関わっています。キリスト教が日本に伝えられるに至った直接的な背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 長野県公立入試 類似)
1. 宗教改革によるカトリック教会の勢力衰退に対し、新たな信者を獲得するためにアジアなど海外への布教が重視された。 2. ルネサンスの進展によって人間中心の考え方が広まった結果、宗教の枠組みを超えた世界規模の文化交流が推奨された。 3. 十字軍の遠征が失敗に終わったことで、キリスト教徒がイスラム教勢力に対抗するための同盟国を東アジアに求めた。 4. ルターが自身の教えを世界に広めるために組織を設立し、その活動の一環として日本が最初の布教先に選ばれた。
-
- 問11 1543年にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に初めて鉄砲が伝えられた場所はどこですか。その地理的な位置関係を示す説明として正しいものを選んでください。 (2024年 大阪公立入試 類似)
1. 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島 2. 九州地方の北部に位置し、大陸との交流が盛んだった福岡県の博多 3. 四国地方の南部に位置し、太平洋に面した高知県の土佐清水 4. 関東地方の東部に位置し、東京湾の入り口にあたる千葉県の大湊
-
- 問12 室町時代から戦国時代にかけて見られた、実力のある下の者が上の者を倒し、その地位を奪い取るという社会的な風潮を何と呼びますか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
1. 下剋上 2. 惣村 3. 寄合 4. 下請け
-
- 問13 室町幕府の支配力が弱まる中で発生した、加賀国（現在の石川県）において浄土真宗の門徒らが守護大名を倒し、その後約100年にわたって農民らによる自治を行った出来事はどれですか。 (2018年 静岡公立入試 類似)
1. 加賀の一向一揆 2. 山城の国一揆 3. 正長の土一揆 4. 島原・天草一揆
-
- 問14 戦国大名が領国内の武士や民衆を統制するために定めた「分国法（分国章程）」に関連する記述として最も適切なものはどれですか。なお、法の中には家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」などの規定が含まれているものとします。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
1. 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動きを抑え、領内の秩序を維持するために制定された。 2. 農民が団結して一揆を起こすことを推奨し、幕府の権威を完全に否定するために制定された。 3. 朝廷から与えられた公家法をそのまま適用し、京都の文化を地方に広めるために制定された。 4. 全国の戦国大名が共通のルールを持つことで、大名間の平和を促進するために制定された。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 宗教改革	16世紀半ば、カトリック教会の腐敗を批判したルターは、聖書の教えこそが信仰の拠り所であると主張しました。この動きは「宗教改革」と呼ばれ、後にプロテスタントと呼ばれる新しい派閥を生むとともに、カトリック側による海外布教（イエズス会の結成など）を促すきっかけとなり、日本へのキリスト教伝来にも大きな影響を与えました。
問2	答え 1 分国法	室町幕府の支配力が弱まり、各地の守護大名が自らの実力で領地を治める戦国大名へと成長する過程で、独自のルールが必要となりました。これを分国法（または「家法」）と呼びます。鎌倉幕府の御成敗式目や江戸幕府の武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領国内だけで適用するために定めたという点が特徴です。
問3	答え 3 応仁の乱	この戦乱によって政治の中心地である京都が荒廃し、将軍や幕府の権威が失墜しました。その結果、地方の武士たちが幕府の指示を仰がずに実力で領地を奪い合うようになり、下剋上の世の中、すなわち戦国時代へと突入していきました。
問4	答え 1 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度	1232年に鎌倉幕府が定めた御成敗式目は、武家社会における最初の体系的な法律です。その後、戦国時代に各地の大名が分国法を定め、江戸時代に入ると、1615年に徳川秀忠の代で全国の名を統制するための武家諸法度が制定されました。分国法は、幕府による全国的な法支配が途絶えていた時期に、地域限定で機能した法という位置づけになります。
問5	答え 1 自らの領国における家臣同士の私的な争いを 禁止、大名による統治を強化するため。	戦国大名は、家臣同士の復讐や紛争（自力救済）を禁止し、大名による裁判を受けさせることで領内の秩序を保とうとしました。これにより、軍力を維持しつつ大名の権力を絶対的なものにする狙いがありました。「喧嘩両成敗」の規定などはその代表例です。他の選択肢にある「全国共通のルール」や「墾田の私有」などは、分国法の性格とは異なります。
問6	答え 1 分国法	応仁の乱以降、室町幕府の権威が衰退したため、各地の戦国大名は自分の力で領国を維持・発展させる必要がありました。そこで、家臣同士の争いを裁いたり、領国内の治安を維持したりするために、独自に制定した法が「分国法」です。今川氏の「今川仮名目録」や武田氏の「甲州法度之次第」などが有名です。
問7	答え 1 家臣同士の私的な争いを禁止、大名の強力な 権限で領国内の秩序を維持すること	戦国大名は、家臣たちの私的な争いが領国の混乱を招くことを防ぐため、武力による解決を禁じました。多くの分国法では、争った両者を理由に関わらず処罰する「喧嘩両成敗」の原則などが盛り込まれ、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を強めようとしていました。大名同士の婚姻制限は江戸時代の武家諸法度の内容です。
問8	答え 1 ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威 を否定し宗教改革を開始していた。	鉄砲が伝来した1543年は16世紀にあたります。この時期、ドイツではルターによる宗教改革が進んでいました。他の選択肢について、イスラム教の創始は7世紀、モンゴル帝国の建国は13世紀初頭、アメリカ南北戦争は19世紀の出来事であり、いずれも鉄砲伝来の時期とは重なりません。
問9	答え 1 家臣同士が私的な武力行使をすることを禁止 、大名の裁判権を確立して領国内の紛争を鎮 めるため。	中世の武士社会では、自らの権利を実力で行使する「自力救済」が一般的でしたが、これは領国内の混乱を招きました。戦国大名は喧嘩両成敗の原則を導入することで、家臣が勝手に争うことを禁止、すべての紛争解決を大名の裁定に委ねさせることで、強力な領国支配を実現しようとしていました。
問10	答え 1 宗教改革によるカトリック教会の勢力衰退に 対し、新たな信者を獲得するためにアジアな ど海外への布教が重視された。	ルターによる宗教改革の影響で、ヨーロッパ内でのカトリック教会の勢力が弱まりました。これに危機感を抱いたカトリック側は、失った勢力を補い、教勢を回復させるために、大航海時代でつながったアジアなどの海外諸国へ積極的に進出しました。イエズス会の活動はこの一環であり、日本へのキリスト教伝来もその大きな流れの中に位置づけられます。
問11	答え 1 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島で ある種子島	1543年、九州の南にある種子島にポルトガル人が漂着した際、島主の種子島時堯が彼らから火縄銃を購入したことで日本に鉄砲が伝来しました。この出来事をきっかけに、日本国内でも鉄砲の製作が行われるようになり、全国へ普及していきました。
問12	答え 1 下剋上	応仁の乱以降、足利将軍家や守護大名の権威が失墜する中で、各地で実力を持つ者が地位を奪う現象が目立ちました。この言葉は当時の不安定ながらも活力のある社会情勢を象徴しています。
問13	答え 1 加賀の一向一揆	1488年、加賀の浄土真宗（一向宗）の門徒たちが団結して守護の富樫氏を自害に追い込みました。その後、加賀は「百姓の持ちたる国」と呼ばれ、約1世紀にわたる自治が実現しました。これは幕府や守護による中央集権的な支配が崩壊しつつあったことを示す象徴的な事例です。
問14	答え 1 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動き を抑え、領内の秩序を維持するために制定さ れた。	戦国大名は、実力至上主義による下剋上が自分の身に及ぶことを防ぐ必要がありました。そのため、家臣間の私闘を禁止、大名の裁決に従わせることで領国支配を安定させようとして分国法を制定しました。一揆はむしろ大名が警戒し、鎮圧すべき対象でした。